国立大学法人富山大学入札監視委員会定例会議議事概要

開催日及び場所	令和2年7月9日（木） 事務局5階小会議室	
委　　員	委員長　山本　直俊（弁護士） 委　員　大村　啓三（公認会計士） 委　員　光田　章（(一財)富山県建築住宅センター専務理事）	
審議対象期間	平成31年　4月　1日　～　令和2年　3月31日	
抽出案件（合計）	5　件	（備考） 今回の審議対象期間においては、再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
建設工事（小計）	4　件	
一般競争入札 （政府調達に関する協定対象工事）	0　件	
一般競争入札 （上記工事を除く）	4　件	
工事希望型競争入札	0　件	
通常指名競争入札	0　件	
随意契約	0　件	
設計・コンサルティング業務（小計）	1　件	
公募型プロポーザル方式	0　件	
簡易公募型プロポーザル方式	0　件	
簡易公募型プロポーザル方式（拡大）	1　件	
標準型プロポーザル方式	0　件	
一般競争入札	0　件	
随意契約	0　件	

委員からの意見・質問、それに対する回答等	意見・質問	回　答
	別紙のとおり	別紙のとおり
委員会による意見の具申又は勧告の内容	なし	

別紙

質　　問	回　　答
１．国立大学法人富山大学において発注した建設工事について（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月分） （施設企画部より説明） ・特になし。	
２．建設工事における抽出案件の審議 （施設企画部より説明）	
<u>案件１；（五福）特高受変電室新営その他工事</u>	
・工事発注概要に示される競争参加資格等級はどのように決定されるのか。	・本学が定める、総合評価落札方式の実施方針に基づき決定している。本件は選定基準に照合すると C 等級対象工事となるが、受注機会拡大のため上位二等級まで含めることを可能とし、A、B 等級の事業者も参加対象としている。
・既設煙突の撤去においてアスベスト除去工事は無かったのか。	・撤去対象の既設煙突は、発注前にアスベスト含有が無いことを確認している。本工事では、撤去建物の仕上材が整備年代的にアスベストを含有する可能性があったことから、撤去着手前の調査を発注に含めている。調査結果でアスベスト含有は無かったと報告を受けている。 参考であるが、別発注の設備工事において、煙突に接続される煙道のパッキン類はアスベスト撤去の対象として処分を行っている。
・本件は当初、設備工事を含んだ一括工事として公告を行ったが、参加希望者は何者であったのか。また、どのような入札結果となったのか。	・当初公告時の競争参加資格申請者は 4 者である。2 者が入札前に辞退し、残り 2 者による入札を行った。二回の入札を実施したが予定価格超過のため落札には至らず、不落随契交渉に移行したが価格乖離のため契約に至らなかった。
・分割発注は、結果的に良かったということか。	・不落を踏まえ、入札時に提出を求めた参考見積書を分析した結果、設備工事の価格が割高であったことが不落の主たる理由と分析し、分割発注を行うこととした。結果として、専門業者間の競争性が高まったことで、それぞれの事業が落札されており、予算的にも有効的な活用が図れたものと考えている。
<u>案件２；附属病院厨房棟新営その他工事</u>	
・主任技術者に対し 2 件までの兼務を認めているが、この規模であっても兼務は可能なのか。	・主任技術者の兼務については、建設業法施行令第 27 条第 2 項に基づき、専任要件を緩和する通知が国より発出されており、本学も同通知に準じて兼務可能としている。

質　　問	回　　答
・低入札価格調査を実施した場合、県では品質確保担保の観点から配置技術者の増員や試験回数の増加等の取組を求めている。大学ではどのような対応をされるのか。	・本学では国に準じた低入札価格調査を実施しており、例示された取組については実施していない。
・低入札価格調査は、聞き取り調査を実施されるのか。	・特に疑義が無ければ聞き取り調査は実施しない。調査自体は１位の業者から見積等の根拠資料を徴収し、書類調査を行っている。
<u>案件３；（五福）中央図書館空調設備改修工事</u>	
・3回目の公告で落札されているが、1回目、2回目の公告はどのような結果となったのか。	・1 回目は参加希望者がなく不調に、2 回目は予定価格超過により不落となった。
・入札は原則２回までだが、なぜ４回の入札を行ったのか。	・3 回目の公告であり、工期も厳しい背景の中、当該入札における価格乖離が少ないこともあり、落札可能と判断して入札を実施した。
・本件に限らず、全体的に不調・不落が多いと思われる。この結果について何か分析しているのか。	・不調・不落となった入札における参加事業者等にヒアリングを行い、当該年度は自治体発注の公共工事が多く、技術者の配置、作業員の確保に苦慮しているとの回答を得ている。このことが不調・不落の要因と分析している。
・本件における空調設備の機器価格の乖離状況はどのような状況であったのか。	・見積上で機器価格の乖離は少なかったが、施工対象外部分を積算している事例が数件見られ、結果、予定価格との乖離が生じていた。このことは、本学が提示する図面の情報不足も想定され、積算を考慮した図面作成を指導しているが、一方で受注者側の技術力が低下していることも考えられ、認識に齟齬を生じない図面作成は課題の一つと捉えている。
<u>案件４；（五艘）人間発達科学部附属中学校渡り廊下改修その他工事</u>	
・工期日程上、新型コロナウイルス感染症の影響による工期延長等は発生しなかったのか。	・入札執行前に参加者より質問があり、国の通達に準じた対応を行うと回答している。契約後、工期延長等の措置は行っておらず、影響はなかった。
・低入札価格調査において、共通仮設費及び現場管理費の確認はどのように行ったのか。	・工事費内訳書及び見積書により確認を行った。
・低入札の理由として、鉄骨の価格差によるとの説明を受けたが、受注者が鉄骨を自社で加工していることから安価になったということか。	・受注業者は自社で鉄骨加工を行っていないとの回答を得ている。以前は鋳造所として操業しており、その頃の協力業者との関係から安価で入手できたとの話であった。

質　　問	回　　答
・入札辞退の業者には理由を確認されたのか。	・確認は行っていない。
３．国立大学法人富山大学において発注した設計・コンサルティング業務について（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月分） （施設企画部より説明）	
・特になし。	
４．設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 （施設企画部より説明）	
<u>案件；（医病）厨房棟その他設計業務（建築）</u>	
・予定価格の事前公表は行っているのか。	・事前公表は行っていない。
・プロポーザル方式であるが、提出書類としてスケッチやイメージ図等は求めているのか。	・技術提案書提出時に求めている。
・ヒアリングは実施しているのか。	・本件での実施はしていない。
・説明において“特定”との説明があったが、何を特定したのか。	・資料審査の結果、評価点第一位の業者を特定したことである。
・特定業者が落札しなかった場合、次順位の業者との交渉となるのか。	・そのとおり。
・本件は拡大型としているが、通常型とはどのような違いがあるのか。	・技術提案書の提出期間に違いがある。通常型は提出期間が 40 日以上と設定されているが、拡大型は 7～14 日と設定される。拡大型は価格競争が優先されるが、必要と判断すればプロポーザル方式を実施することが可能とした制度。本事業は病院の厨房棟新営設計業務であり、事業者の技術的工夫等が書面で判断できない場合を考慮し、拡大型を採択している。
４．指名停止等の措置状況について （施設企画部より説明）	
特になし。	
５．その他	
特になし。	
以上	